

自己実現への道

第96回 ー 第7章 「自分の運命を好転させる心の持ち方」(その3完)

★ 「それでも自分是可以る」と考える人間は伸びる

「自分にそんなことができるはずがない」と思っている人は多いが、「できません」と断言した瞬間に、あなたは高い塀に囲まれた裏庭の八方ふさがりの箱の中に自分を閉じ込めてしまう。しかし、「人は誰も同じ権利を有し、誰でも大きな夢を見ることができる」ことも真実である。しかも問題なのはお金ではなく、監獄からあなたを救い出してくれるパワーとなるのは「夢の力」である。そして、夢はあなたにやる気、創造力、信念、自信を与えてくれる。

信念を持って明るく考える人の前では、障壁は崩れ落ち、
暗い考えをする人の前には、彼ら自らが築く障壁が立ち塞がる。

自分がどう考えるかによって人生は変わってゆく。条件が悪くても「それでも自分是可以る」と考えている人は大きく発展する。条件の悪さを嘆くのではなく、心の持ち方によって条件・環境はいくらでも変化してゆくのである。

★ 偏見にがんじがらめになっていないか

科学の真理は見える真理であり、宗教の真理は見えざる真理である。いずれか一方だけが正しいと考えるのは間違いであり、両者が矛盾すると考えるのも間違いである。例えば、仏教は、仏法という科学と哲理を説くが、宗教である。相反すると思われるものでも、実は繋がっていることを忘れてはならない。

★ 優しい眼と笑顔の計り知れない威力

愛情はまず目つきに現れる。相手をじっと見つめれば、そこに生きたコミュニケーションと、ほのぼのとした人間関係が生まれる。

コミュニケーションとは、友情の樹立を願って相手の眼を見つめることである。

ある人が未開のジャングルの原住民と初めて出会ったとき、原住民の眼は、彼の眼を疑い深そうに覗き込んだ。彼は終始笑顔絶やさず、一心に祈りながら、信頼のまなざしを彼らに返した。すると、原住民は他の連中を呼び寄せ、歓迎の意を示してくれた。言葉が通じなくても、コミュニケーションがうまくいくかどうかは、全く、表情のいかんにかかっているということなのだ。

あなたは今、どんなジャングルに足を踏み入れなければならないだろうか？

いつも愛の微笑みを絶やさず、頭をまっすぐに支えて、相手の眼をじっとみつめるように心がけよう。

絶えず、優しい眼と笑顔を忘れないことだ。

どんな人に会っても、できるだけ優しい眼と笑顔で対応しよう。そうすれば多くのことがうまくいく。

困難に出会っても、できるだけ優しい眼と落ち着いた心を忘れないように。

<MIKO>

参考文獻：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より